

令和4年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県北会場

科目 ③今 ここでできること～子ども「楽しい」をみつけてみよう～

- ◆ 私が勤務している児童クラブは、子どもたちにとって「ホッとする」「お家みたい」と感じられる場所になっているのだろうか。今回の科目を通じて現状を見直すことができました。楽しいクラブにするために、まず支援員自身が笑いや楽しさを意識することが大切で、子どもたちと一緒に楽しみ、子どもたちの好きな物に興味をもつなど物的環境のみならず、人的環境を意識していこうと思いました。そしてたくさんの「ニヤリホッと」を感じられるように前向きに頑張ろうと思いました。
- ◆ カプラというおもちゃに初めて触れました。積み重ねるだけで乗り物や動物など、たくさんの物が作れて、一人でも数人でも楽しめるおもちゃは良いなと思いました。学校や学年が違っていても、仲良く遊べる空間、上級生や地域の方がお手玉などを教えてくれる環境があることは良いことだと思い、できる限りそうした環境に近づけたいと感じました。私ができることを子どもたちと共有し、子どもたちからも学び、笑顔で関われる支援員になりたいです。
- ◆ 学童保育の仕事に携わってから数年経ちますが、単に子どもを預かるだけの仕事ではないと心底思います。自分の言動が子どもに与える影響は大きく、また、子どもは大人表情等も見ているため、接し方には気をつけているつもりですが、その上で真っ直ぐに子どもたちと向き合いたいと改めて思いました。毎日の仕事を幸せに感じながら過ごしていければ最高なことだが、それには自分の心がけや笑顔が必須なのではないかと感じさせられました。
- ◆ 子どもにとって楽しいは遊びだけではなく、色々な活動やふれあう時間などたくさんあります。今あるもの、ここだからできることを大事にし、そこから進めていきたいと思えます。遊びの楽しさを仲間の中で共有していくためには、大人も一緒に興味をもって楽しむ気持ちが必要です。児童クラブでは乱暴な子やいつもトラブルを起こす子を注意してしまいがちですが、どうしてそうなったのか、その子からきちんと話を聞いて寄り添っていく必要があると思いました。
- ◆ 児童館は幼い子どもから小中高生等幅広く、皆が出入りできる場所であり、様々な行事を行うことができますが、放課後児童クラブは登録制なので、行事もなく限られた子どもたちの居場所です。物的環境・人的環境を日々意識し、「笑い・楽しさ」を大切に、日々の仕事に励みたいと思えます。子どもや保護者との信頼関係を築き、「ニヤリ、ホッと」を毎日の生活の中でたくさん見つけられるようにステップアップしていきたいです。